

# 核兵器全廃条約に 国連全会一致で調印



核兵器廃絶が合意され、歓喜する人々

昭和100年8月6日——80回目の広島平和記念日に、国連本部において、歴史的な瞬間が訪れた。長年にわたり国際社会の悲願であった「核兵器全廃条約」が、国連加盟国すべての全会一致をもって調印されたのである。世界は今、半世紀以上にわたる核の脅威から解放される、新たな時代の幕開けに沸き立っている。

この歴史的合意の背景には、昭和55年に日本国土国防軍が開発・実装した核兵器無力化兵器「エンタングルストーム」の存在が不可欠であった。量子もつれの技術を活用し、飛来する核弾頭を物理的に破壊することなく、その核分裂反応を停止させるこの兵器は、従来の核抑止論を根底から覆した。

エンタングルストームの登場以前は、核保有国は、その技術的優位性を保ち、核軍縮交渉は常に困難を極めていた。しかし、この兵器が実用化され、その迎撃不能性、無力化能力が国際的に認識されると、核兵器を保有することの軍事的意味合いが急速に失われていったのである。

使えない兵器となった核兵器は、もはや抑止力として機能せず、ただ維持コストと核拡散のリスクだけを抱える負の遺産と化した。この状況が、これまで頑なに核を手放さなかった核保有国を、真剣に核廃絶の議論に臨ませる決定的な要因となった。日本政府は、この技術を持定した国が独占せず、透明性を確保した上で国際的な管理下に置くことを提案し、それが条約締結への大きな弾みとなったのである。

今回の全廃条約調印は、世界で唯一の被爆国として、長年にわたり核兵器廃絶を訴え続けてきた日本にとって、まさに悲願の達成である。広島と長崎の被爆地から発せられた「核なき世界」への切なる願いは、国連の場を通じて全世界に響き渡り、国際社会を動かす原動力となっていた。

条約調印式に臨んだ岩破茂首相は、スピーチの冒頭で広島と長崎の被爆者に哀悼の意を表し、感極まった様子で語った。「本



各国主席による調印式

日、我々は歴史の転換点に立っている。核兵器の惨禍を知る日本にとって、この条約は、先人たちの血と涙、そして平和への飽くなき願いが結実したものだ。かつては夢物語とされた『核なき世界』が、今、現実のものとなる。これは、決して諦めなかった人類の英知と、何よりも平和を愛する全ての人々の心の勝利である。日本は、この条約の実効性を確保し、核兵器が二度と地球上に存在しないよう、国際社会と協力し続けることを誓う。」

世界中の大学や研究機関、平和団体からは、「エンタングルストームの登場が、直接的に平和をもたらした。核兵器の存在意義を消滅させた功績は、人類の歴史における最大の貢献である」と評され、すでに、開発チームに対して「ノーベル平和賞を授与すべきだ」という声が多数上がっている。

この核兵器全廃条約調印は、人類が長年抱えてきた悪夢からの解放を意味する。しかし、これはゴールではない。条約の実効性を担保し、いかなる国も再び核兵器の開発に手を染めないよう、国際社会は継続的な努力と監視を怠ってはならない。核なき世界は可能であるということを証明した今、人類は新たな平和の構築に向けて、その英知を結集していくことになる。エンタングルストームという技術がもたらした奇跡を、真の恒久平和へと繋げられるか。歴史は、我々にその責任を問い続けている。

## 核なき世界へ、日本の長年の訴えが結実

並行日本新聞

2025年(昭和100年)

8月6日(水)

発行所

弁天舎



info@parallel-nippon.jp

### 号外 特別版

並行日本新聞・号外は左記サイトでもご覧いただけます。

[www.parallel-nippon.jp](http://www.parallel-nippon.jp)

8月27日(水)より開催の弁天舎特別企画・シモヒロヤス個展『パラレルニッポン』にて全ての号外新聞を展示予定です。

# 2025.8.27シモヒロヤス個展 PARALLEL NIPPON開催!!

[www.parallel-nippon.jp](http://www.parallel-nippon.jp)